

No.	異常現象の種類	年	月	日	都道府県名	人的被害状況	事故概要
183	爆発	2	10	1	兵庫県	死亡者1名 中等症1名	レーヨン製造工場2階で硫化機解体作業中に配管を切断し爆発。特殊引火物の二硫化炭素が爆発したと思われる。1名はドクターヘリで搬送したが病院で死亡。二硫化炭素と一酸化炭素が建物内に充満している状況。建屋は大きな損傷無く外部へ被害が広がる可能性なし。硫化機タンクに一酸化炭素ガス、タンク内に塩素ガスの反応あり。タンク内に水を張りガス発生を抑制。外部に被害が拡大する可能性はなし。
184	火災	2	10	1	広島県	なし	配電盤インバータから出火。既に鎮火(10/1 20:35)済み。
185	漏洩	2	10	2	神奈川県	なし	製油所B棧橋付近配管部分から重油が流出したもの。海上流出なしとの(事業所からの)通報
186	漏洩	2	10	2	神奈川県	なし	川崎製油所300号地の硫黄回収装置のサンプリングボックスから、硫黄が約30リットル漏洩したもの。同日10:56バルブを閉じ、漏洩は停止、臭気はあるがガス検知器にて測定するも検知なし。同日11:13処置完了。
187	漏洩	2	10	2	神奈川県	なし	小口燃料調合施設の20号タンクのドレンバルブから、ガソリンの機材が約670リットル漏洩したもの。同日11:15バルブを閉じ漏洩停止。防油堤内に漏洩したガソリンを吸着マットで吸着して拡大を防止。時間の経過とともに吸着したガソリンは気化したため回収の要無し。同日12:28消防処理完了。
188	その他	2	10	3	神奈川県	なし	指定可燃物のトリメリット酸エステルを貯蔵する屋外タンクで、品質保持のため窒素で圧力調整しているが、何らかの原因で圧力が不安定になり、当該タンク上部が破裂したもの。
189	漏洩	2	10	3	岡山県	なし	10月1日午前、4年ほど前から使用を停止(廃止)していた付属配管の洗浄作業のため、窒素加圧を行っていたところ、作業員が負傷したため作業を中止した。(窒素加圧も停止)10月3日14:10、当該配管からの分解重油の漏えいを発見。直ちに漏えい箇所を上下弁を閉止するとともに、バンド巻により17:21漏えいは停止した。漏えい量は約1.8キロリットルであり、場内に留まっており場外への流出はない。
190	火災	2	10	4	愛知県	なし	鍛造調質工場より出火。柵の取り替え工事を実施するにあたり、10時の休憩前に柵の切断(溶断)を行ったところ、10時10分頃に警報が発報し火災を覚知したもの。高さ2mくらいの炎が上がり、消化器を使用した初期消火できず、自衛消防隊の消防車からの放水により消火したもの。
191	漏洩	2	10	5	千葉県	なし	プラントの冷却熱交換器において、潤滑油(第4類第4石油類)が漏洩。(漏洩量については、現在調査中)10月5日(月)9時57分措置済。
192	火災	2	10	6	千葉県	なし	部品小屋にあった台車(NCEボンド<第2種引火性液体>及びLIQUIDA<第5類第2種自己反応物質>)と小屋(縦1.8m×横2.9m×高さ2.1m)の一部が焼損したもの。
193	漏洩	2	10	6	千葉県	なし	原油タンクのみキサーマカニカルシールより原油が漏洩したもの。翌10月7日4:10措置完了。漏洩は全て防油堤内。漏洩量は2880リットル。
194	火災	2	10	8	山口県	なし	チラノ繊維原材料ポリマーが出火。通報時、初期消火済。
195	漏洩	2	10	9	神奈川県	なし	事業所において、屋外の配管から塩素ガス(毒劇物)が漏洩したもの。けが人等なし。同日14:43措置完了。事業所職員により配管を縁切りし14:10窒素パーズ開始。14:30公設消防隊により検知活動を実施しながら漏洩箇所付近を測定するも検知せず。縁切り範囲の窒素パーズが終了し、塩素ガスが検知されないため14:43に処置完了。
196	火災	2	10	11	神奈川県	なし	スチームラッキング装置のタンク(レジン・樹脂:24,000リットルタンク)上部から出火。10月11日(日)16時16分鎮火。
197	漏洩	2	10	14	千葉県	なし	直接重油脱硫装置、フラクショネーター付属配管のピンホールからミスト状に硫化水素が漏洩したもの。本日15時55分漏洩停止措置済。
198	火災	2	10	16	千葉県	なし	危険物施設4階にある設備のゴムが燃えたもの。初期消火により鎮火。
199	火災	2	10	19	山口県	なし	工場内のハロゲンランプコンセントから出火。従業員が初期消火により消火済み。外部への影響はなし。
200	漏洩	2	10	19	千葉県	なし	船に製品(A重油)積み込み作業中、オーバーフローし、当該重油約50リットル程度が海上へ流出したもの。流出直後に事業者によりオイルフェンスを展開し、回収作業実施。本日8時48分漏洩停止措置済。
201	漏洩	2	10	23	愛知県	なし	本日11時頃、当該移送取扱所の岸壁から20m程度離れた海上部で油膜を発見し通報したもの。事業所内の装置内の含油水等は排水処理場で油水を分解・分離等の処理がされた後海上へ放流されるが、装置以外の雨水(雨水系)は簡易な分離装置で海上へ放流されている。今回この雨水系に何らかの理由で油が流入し。放水口から海上に油膜が広がったと推定される。現在は放流は停止しており、海上への拡大はない。原因は調査中。
202	漏洩	2	10	25	岡山県	なし	上記貯蔵タンクの月次点検を行っていたところ、付属ローリングラダーの破損を発見した。なお、タンク内容物(ナフサ)の漏えいはない。
203	漏洩	2	10	27	神奈川県	なし	ポリプロピレン押出機室の装置のスタートアップを実施した後、従業員が点検をしていたところ、減速機のボス(キャップ)が何らかの原因で外れており、潤滑油が約70リットル漏洩したもの。潤滑油は、減速機の架台内に留まっており、また架台から溢れた潤滑油が減速機周囲へも若干漏洩していたもの。事業所職員によりポンプ停止するとともに、仮のボス(キャップ)を挿入し漏洩は停止した。漏洩した潤滑油は、事業所従業員によってすべて回収された。同日10:40処理完了。
204	漏洩	2	10	28	和歌山県	なし	芳香族製造装置付属タンクから芳香族半製品が漏えいした。
205	火災	2	10	30	神奈川県	なし	仮設資機材倉庫から出火。本日(10月30日)7時26分鎮火。
206	漏洩	2	11	1	岡山県	なし	原油受入配管から原油が漏洩したもの。(漏えい量:推定量6.9kL)なお、漏えいは11月2日1時35分に停止しており、事業場外への流出はない。
207	火災	2	11	4	愛知県	なし	保管倉庫の建物火災。公設消防隊現場到着時、建物内部に黒煙が充満しており、屋内進入にて消火活動を実施。他の施設などへの延焼なし。

No.	異常現象の種類	年	月	日	都道府県名	人的被害状況	事故概要
208	漏洩	2	11	5	兵庫県	なし	ジメチルアセトアミド(DMAC)が20L漏えい。漏えいは防油堤内で収まっているため、外部流出はないとのこと。
209	漏洩	2	11	5	神奈川県	なし	第四減圧蒸留装置の熱交換器(フランジ部分)から、重油が約70リットル漏洩したもの。
210	火災	2	11	5	千葉県	軽傷者1名	鉄工工場内で、21歳女性作業員がクラッシングガイドの肉盛りをするためにアーク溶接作業を実施していたところ、着衣に着火し、頸部から腹部にかけてのⅡ度熱傷を負ったもの。なお、建物への被害はない。
211	火災	2	11	8	千葉県	なし	加工品工場の電気計器盤から煙と炎を従業員が確認。当日(11月8日)従業員の消火作業により鎮火。
212	火災	2	11	10	兵庫県	なし	黒煙が見えると消防本部職員から連絡があり、県が事業所に確認したところ、スクラップヤードのベルトコンベアが燃えていることが判明した。
213	火災	2	11	13	愛知県	なし	ショベルカーから出火した車両火災。
214	破裂・破損	2	11	10	愛知県	なし	オートクレーブに圧縮空気を供給する高圧コンプレッサーの圧力制御不具合により圧縮空気圧力が、設定圧より高くなった為、レシーバータンク安全弁が動作した。動作した際、配管のサポートが外れ配管が激しく振動し安全弁の配管に亀裂が生じた。
215	漏洩	2	11	13	広島県	なし	11月13日 23:20頃、巡回中に定期修理中のコンプレッサーから潤滑油の漏えいを発見。直ちに潤滑油バルブを閉止し漏えいは停止した。所外への漏えいはなし。漏えい量は調査中。
216	火災	2	11	17	神奈川県	なし	危険物倉庫の屋内貯蔵所内に貯蔵していたアクリル酸メチルのドラム缶(1缶)が、何らかの原因により破裂したもの。同日18:13自衛消防隊により警戒筒先1線配備。同18:31事業所職員によりガス検知するも検知なし。同19:33ドラム缶3本を屋外へ搬出し、重合禁止剤の投入完了、ドラム缶の温度にあつては21℃で安定していることを確認。公設消防により、屋内貯蔵所及び屋外へ搬出したドラム缶の周囲をガス検知するも検知なし。事業所と協議し、同日19:43消防処置完了とした。
217	漏洩	2	11	18	和歌山県	なし	製造所内からスロップオイル約10Lが漏えい。
218	漏洩	2	11	19	神奈川県	なし	スチームクラッキング装置のタワー先端部にある点検口のノズルからブタンが漏洩。公設消防が現場確認のため現地へ移動中。自衛消防において対応中。
219	漏洩	2	11	21	大阪府	なし	流動接触分解装置の排ガス回収ラインから、LPGが漏洩。(漏洩量不明)
220	漏洩	2	11	21	愛知県	なし	21日6:00運転員が巡回点検中に、4Bブタン配管のドレンライン(3/4B)の保温外面に凍結物があることを発見した。その後、凍結物の発生原因を調査したところ、ブタン99%の自家燃料ガス(LPG)が漏洩していたことが判明した(漏洩量は調査中。)当該配管は、水素製造用加熱炉の燃料用ブタン。常時はバックアップラインとしており、加圧(0.5MPa)された状態で管理されているが当日は使用していない。消防現場到着時、当該配管ラインはバルブブロックが完了しており、降圧作業実施中だった。
221	漏洩	2	11	23	千葉県	なし	合成ゴム製造施設のブタジエンドライヤー再生ラインのピンホールから、ブタジエンガス約10kgが漏洩したもの。海上、河川への流出無し。
222	火災	2	11	24	千葉県	なし	圧縮機室にて、酢酸ビニルのドレン抜き作業中、溶剤回収ラインから出火。消火器にて初期消火済み。
223	爆発	2	11	24	神奈川県	なし	ダウサム加熱設備において、定修後の燃焼テストを実施していたところ、点火が上手くいかず、7回起動した時点で加熱設備の上部が爆発し、破片が事業所敷地に飛び散ったもの。(使用ガスは、都市ガス)事業所職員により、ガスラインのバルブを閉止し、供給停止。公設消防隊がガス検知器により測定するも検知なし、同日15:04鎮火確認。
224	火災	2	11	27	愛知県	なし	制御盤からの出火。消防隊が消化器で消化して鎮火済。
225	漏洩	2	11	29	大阪府	なし	一般取扱所(ローリ充填場)にて移動タンク貯蔵所に積み込み中、誤操作により車両上部のシェルター内に約20Lのガソリンが漏えいしたもの。
226	漏洩	2	12	3	和歌山県	なし	第4石油類ラフィネートの地中配管で漏えい。漏えい量は不明。
227	漏洩	2	12	6	和歌山県	なし	潤滑油抽出装置に付属するタワーへ送る配管から漏えい。漏えい量は不明であるが、数リットル程度の模様。
228	火災	2	12	7	愛知県	なし	防錆油を塗布する設備の付近から出火(建物火災)。
229	火災	2	12	7	愛知県	なし	プラスチックの破砕コンベアから白煙が噴出していたとの通報により消防が出動。自動散水設備により消火。消防隊が現地に到着時、屋内は煙が充満していたが火災は確認できず。消防隊が現場確認し、鎮火としたもの。
230	漏洩	2	12	8	茨城県	なし	配管からハイドロシランが漏洩したもの。詳細は現在調査中。本日13時5分に漏洩停止措置完了。
231	漏洩	2	12	10	大阪府	なし	敷地内のローリ充填場にて移動タンク貯蔵所に積み込み作業中にオーバーフローし、エチルアルコールがローリ車のシェルター内に約100L漏えい。漏えいはローリ車上部のシェルター内に収まっており、地上部への漏えいはなし。
232	漏洩	2	12	13	広島県	なし	事業所職員がサクシオン側のドレンより漏えいしているのを発見。手動バルブにて閉止を行い、漏えい停止。漏えい量は防油堤内に約200リットル、防油堤外(地面)に約1700リットル。事業所外への漏えいはなし。漏えい物質は以下の混合物。DPMA(4類3石、非水溶性):50%、酢酸イソブチル(4類1石、非水溶性):25%、酢酸(4類2石、水溶性)とDPM(4類3石、水溶性)の混合物:25%

No.	異常現象の種類	年	月	日	都道府県名	人的被害状況	事故概要
233	漏洩	2	12	15	山口県	なし	バースエリアでの船舶から受入作業中に、T-DAE(アロマオイル 芳香族系、可燃性液体類)約69Lがバース上に流出した。漏えい原因は、配管外面腐食による開孔2カ所出来たことによるもの。海上への漏えいはない。
234	漏洩	2	12	17	神奈川県	なし	移動タンク貯蔵所から製造所に指定可燃物(ネオドール45)を受け入れていたところ、移動タンク貯蔵所の下部から指定可燃物が約100kg漏洩したもの。なお、漏洩は停止しており、事業所職員により回収済。同日12:41処置完了。
235	漏洩	2	12	17	千葉県	なし	硫酸を海水により熱交換している設備の不良により、海水配管へ硫酸が流入し、海上まで流出したもの。
236	漏洩	2	12	19	神奈川県	なし	脱硫装置熱交換器から軽油約5リットルが漏洩。12月19日(土)5時43分に漏洩停止措置完了。
237	破損	2	12	20	茨城県	なし	CO1214(危険物第四類第三石油類)が貯蔵された屋外タンク貯蔵所の上部が破損。
238	火災	2	12	21	広島県	なし	電気室配電盤より出火。消火器にて初期消火済み。
239	漏洩	2	12	23	千葉県	なし	地上50cmにあるタンク付属配管(6インチ)から、ナフサが約300リットル漏洩したもの。タンクローリーへの抜き取り作業を実施。河川海上への流出無し。
240	漏洩	2	12	28	山口県	なし	グリセリン(第4類第3石油類 水溶性)をタンクに回収する作業を実施していたところ、何らかの原因により移送ポンプが停止せず回収タンクから約140リットルオーバーフローしたもの。流出したグリセリンは施設内排水溝を経て排水処理槽に留まり事業所外への流出なし。0時52分、事業所内排水環境測定値が正常値であることを確認し処理完了。
241	漏洩	2	12	28	大分県	なし	製造所から屋外タンクへ送油する配管の防油堤貫通部付近で危険物(ナフサ)漏れを確認。漏えい量は約48ℓ。バルブ閉鎖により漏えいを停止。
242	漏洩	2	12	31	茨城県	なし	点検員が、アスファルトタンクの側板から漏洩跡を発見。1月1日(金)5時30分、当該タンク内の残存アスファルトを移送し、漏洩停止等措置完了。